

写真展 岩合光昭の

世界ネコ歩き2

Mitsuaki Iwago's World "cats" Travelogue Photo Exhibition

9月18日(月・祝)まで開催中

9:30~17:00(入館は16:30まで)
月曜休館 ※ただし9月18日(月・祝)開館

■一般 1,200円(1,000円)
■大学生 1,000円(800円)
()内は前売および20名以上の団体

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳等をご持参の方とその介護の方は無料
※本展をご鑑賞の際は、常設展も無料でご覧いただけます

18歳以下
無料

作品介绍



アメリカ/ニューヨーク

ニューヨーク、ブルックリンのピザ屋に面白いネコがくるという情報を得て、岩合さん達はお店にいったそうです。日本だとネコ＝魚屋さんのイメージがあるかもしれませんが、ニューヨークだとピザ屋さんにネコというのが、なんだか都会的な感じがします。それはさておき、3日間待ってもこのネコが来ない。待って待ってピザも食べ飽きて、諦めかけてきた3日目の夕方、ようやく白いネコが現れたそうです。そのネコの名前はホワイトスライス。モッツアレラチーズだけをのせた、店の人気メニューの白いピザにちなんで名付けられました。そんな彼女はまさにお店の「看板娘」。

ネコを撮り続けて半世紀。岩合さんが撮影したニューヨークのネコは、みんな個性的で魅力に溢れています。



オランダと言えば風車。その前に座っているのは、15才のオスネコ、ボモルです。驚くべきことにこの風車は今から約350年前、1672年から使われているそうです。そんな歴史ある風車の伝統を守る「風車守」の夫婦と彼は暮らしていました。家庭菜園を楽しんだり、編み物をしたり。水や風とともに生きる彼らには、ゆったりとした時間が流れています。

「ネコがいたから世界中 好きになりました」という岩合さんのように、ネコのいる場所には幸せな時間が流れているように思います。ネコのいる世界が、平和で満たされていくことを願うばかりです。



オランダ/ストンブウェイク

©Mitsuaki Iwago

【参考】「岩合光昭の世界ネコ歩き 続々番組ガイドブック」岩合光昭著 発行クレヴィス
「岩合光昭の世界ネコ歩き2」岩合光昭著 発行クレヴィス

(周南市美術博物館学芸員 今井良枝)



展覧会関連イベント

岩合光昭さんの トークショー・サイン会を開催しました！

8月11日(金・祝) 周南市文化会館 大ホールにて
2回開催し、多くの方々にお越しいただきました。

トークショーでは、写真展の展示作品について、「撮影をしていると、何を望んでいるか、本当に人の気持ちを察してくれるネコがいる」など、岩合さんは撮影時のエピソードをユーモアを交えながら話してくださいました。

また、「ネコの柔らかな表情を見てほしい」「ネコに向かって話しかけると、ネコも安心して緊張が解ける」「環境がネコを育てる。環境を写真に写し込むことはとても大切。どんなところでネコが暮らしているかを伝えたい」などネコを撮影する時の心がけや写真への思い、さらに、岩合さんがネコに惹かれた時のお話も伺うことができました。



47都道府県でのネコの撮影を進めている岩合さん。きっかけは、
すくもしる 杵島(山口県周南市)での撮影
だったそうです。「山口県で、今度は4Kで撮影したい。そのときは静かに見守ってもらえれば」と、県内での撮影にも意欲的でした。



「ネコが幸せになれば、人が幸せになって、地球が幸せになる」が岩合さんの口ぐせだそうです。

「絶対ネコが幸せになるように、そのために“ネコ歩き”をつくります。これからも応援よろしくお願いします」と、今後の抱負と会場の皆さんへのメッセージで締めくくられました。

会場は笑いや拍手に包まれながら、みなさん楽しそうに耳を傾けていらっしゃいました。

サイン会も開催し、みなさんうれしそうな様子でした。

イベント後、岩合さんは美博の展覧会会場へ。展示室入口の看板にサインをしてくださいました。
写真展にお越しの際は、こちらもお見逃しなく！



岩合さんからの
メッセージを
ご覧いただけます



写真展「岩合光昭の世界ネコ歩き2」は、9月18日(月・祝)まで！

図録・グッズ紹介



眼鏡ポーチ
3,850円



ボックスティッシュ
カバー
1,980円

写真集
『岩合光昭の世界ネコ歩き2』
1,760円



2024 岩合光昭 ねこ
monthly calendar 1,200円

トイレットペーパー
カバー
2,200円



※表示価格はすべて税込みです。※商品のデザインと価格に変更になる場合がございます。※売り切れの際にはご了承ください。

LAWSON

ローソンの
ソフト
クリーム

ボリューム
満点・
美味しい♪

205円(税込)

ローソン徳山動物園前店 0834 32-8363

※画像はイメージです。

ひはく 美博クイズ~!〈116〉 もんだい

右の製品は、
美博の収蔵庫や展示ケース内
で使われているよ。
どんな役割があるのだろう？



周南市美術博物館 常設展示

- 常設展観覧料：一般200円(160円) 大学生等100円(80円) ()内は20名以上の団体
※18歳以下および70歳以上無料
※写真展「岩合光昭の世界ネコ歩き2」の観覧券で常設展も無料(～9/18)
※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳等をご持参の方とその介護の方は無料
- 休館日：月曜日 ※ただし、9/18開館、翌9/19休館

展示室 4 林忠彦記念室

昭和の作家たち くつろぎのひととき 11/30(木)まで開催中

林忠彦の前で、作家たちが見せた日常のくつろいだ姿。撮る側と撮られる側との信頼関係までがうかがえます。

動物と戯れる作家の姿も多くとらえています。なかでも驚くのは、火野葦平とライオンです。

林忠彦は次のように述懐しています。

「晩年、家でライオンを飼ってしましてね。ああいう猛獣は3年ぐらい経つと野生にかえるそうですが、3年目になっても、ものすごくでかくなったライオンが葦平さんに甘えて檻から出してもらって、じゃれるんです。僕はこわくてたまらなかった。」



「火野葦平」
([「文士の時代」より])

展示室 5 まど・みちおコーナー

今回の内容の展示は9/28(木)まで

まどさんが集中的に抽象画を描いたのは、1961(昭和36)年からの3年間で、抽象画の多くは身近にあるボールペンやフェルトペン、クレヨン、水彩絵の具などを使って描かれています。

この作品をよく見てみると、青く塗られた背景の上に、別の紙がコラージュされています。おそらく1枚の紙に色を塗り、それを切って貼り付けたのでしょう。

落ち着いた静かなトーンの作品ですが、コラージュされた紙の形から、リズムカルな印象も受けます。みなさんのそれぞれの感性で、自由に作品を味わってください。それが抽象画の魅力のひとつです。



(タイトルなし) 1963年6月19日

徳山の歴史 特設コーナー

「海外に学んだ先人たち」 12/3(日)まで展示中

明治元年(1868)から6年間、イギリスに留学した毛利元功は、約300冊の本を持ち帰っています。今回はその中から、万国地図や地理の教科書、オックスフォード大学やケンブリッジ大学の入試問題、軍隊関連の本などを展示しています。

また、明治24年(1891)10月から10ヶ月間、軍事教育の状況視察のためヨーロッパを歴訪した児玉源太郎のシルクハットとそのケースにもご注目ください。ケースには、フランス・マルセイユのホテルのステッカーが貼られています。

二人は、海外で何を見て、何を感じたのでしょうか。



周南市誕生20周年

第21回 周南市美術展2023

観覧
無料

◆会場 周南市美術博物館 展示室1・2・3

◆会期 前期展覧会(書・写真) 10月11日(水)～10月15日(日)
後期展覧会(平面・立体) 10月18日(水)～10月22日(日)

9:30～17:00(入場は16:30まで) 月曜休館 ※10月11日(水)は、表彰式後10:00から開場

◆問い合わせ先

運営全般に関すること … 周南市地域振興部文化スポーツ課(文化担当)

〒745-8655 周南市岐山通1丁目1番地 TEL 0834-22-8622(8:30～17:15 土日祝は休み)

作品、展示に関すること … 周南市美術博物館

〒745-0006 周南市花鳥町10番16号 TEL 0834-22-8880(9:30～17:00 月曜休館 ※祝日の場合は翌日)

※最新情報は、市と美術博物館のホームページでご確認ください。



前回の展示風景

日本の画家たち展(仮称) 11月22日(水)～2024年1月21日(日)

2022年1月に新型コロナウイルスの影響で、会期中途中で中止となった展覧会「自身への眼差し 自画像展」。この展覧会では、笠間日動美術館が誇る画家たちの自画像コレクションと当館が所蔵する周南市出身の写真家・林忠彦が撮影した画家のポートレートに合わせて展示したことが注目され、中止を残念がる声も多く届きました。

そこで、今回の展覧会では、林が撮影した日本を代表する画家たちがどんな作品を描いていたのか、その他日本を代表する画家たちの作品を笠間日動美術館のコレクションと当館所蔵の林撮影のポートレートを通して紹介します。ぜひご期待ください。



林忠彦撮影
「東郷青児」([「日本の画家」より])



東郷青児「ヴァイオレット」1949年
©Sompo Museum of Art, 20203

美博クイズ～!〈116〉 こたえ

作品を虫から守る(殺虫・防虫剤)

文化財用に作られていて、作品にとって害のある、紙や木を食べる虫を退治してくれるよ。

日通の えころじ
こんぽ

お見積り無料。まずはお電話を!

0120-154022

ひっこしはにっつう

www.nittsu.co.jp/hikkoshi/

ART and HISTORY インフォメーション

周南

周南市美術博物館 ☎0834-22-8880

周南市誕生20周年記念 写真展
「岩合光昭の世界ネコ歩き2」 ～9/18(月・祝)

周南市郷土美術資料館 ☎0834-62-3119

土居健 作品展 ～版画と七宝の世界 ～9/3(日)

尾崎正章常設展「音のある世界」 ～9/10(日)

林忠彦写真展「日本の画家を撮る」 9/23(土・祝)～11/26(日)

尾崎正章常設展「風のある世界」 9/23(土・祝)～12/3(日)

こもれび保育園 作品展 ～9/10(日)

防府

毛利博物館 ☎0835-22-0001

毛利輝元生誕470年記念(2)
毛利輝元の国づくり-関ヶ原と長州藩の誕生-
9/9(土)～10/22(日)

山口

山口県立山口博物館 ☎083-922-0294

やまぐち大考古博 ～9/3(日)

山口県立美術館 ☎083-925-7788

ジブリパークとジブリ展 ～9/24(日)

萩

山口県立萩美術館・浦上記念館
☎0838-24-2400フィンランド・グラスアート
輝きと彩りのモダンデザイン 9/16(土)～12/3(日)ムーミンの食卓とコンヴィヴィアル展
「食べること、共に生きること」 9/16(土)～12/3(日)

萩博物館 ☎0838-25-6447

萩博物館夏期特別展「萩・古生物キングダム」 ～9/18(月・祝)

長門

香月泰男美術館 ☎0837-43-2500

香月泰男の魚海図鑑 ～9/25(月)

下関

下関市立美術館 ☎083-245-4131

企画展「赤間関関 堀尾信夫の挑戦」 9/5(火)～10/15(日)

下関市立歴史博物館 ☎083-241-1080

特別展 花凛々と下関ゆかりの女性たち ～10/1(日)

～ TOSOH PARK 永源山の中にある美術館～
周南市郷土美術資料館・尾崎正章記念館

■ 9時30分～17時(入館は16時30分まで)

■ 観覧料：一般200円(160円) 学生等100円(80円)

()内は20名以上の団体 ※18歳以下および70歳以上無料

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳等をご持参の方とその介護の方は無料

■ 休館日：月曜日 ※9/11(月)～22(金)は展示替え等のため休館

土居 健 作品展 ～版画と七宝の世界 9/3(日)まで開催中
尾崎正章常設展「音のある世界」 9/10(日)まで開催中

企画展

小展示室



林 忠彦撮影 「三岸節子」

「林さん、きれいに撮ってよ」と三岸節子。カメラを構えると、それまで笑顔だった彼女の目がきらりと光って鋭い眼となり、林はこれを撮らなければという思いでシャッターを切りました。

彼は数多くの画家を撮影し、普段見られない画家たちの素顔を写真に写しこみました。今回展示している「日本の画家」は、林が生前、写真展のために制作したオリジナルプリントパネルです。写真集「日本の画家」に掲載された作品とは違うカットをご覧ください。

9月23日(土・祝)～11月26日(日)

林忠彦写真展
「日本の画家を撮る」

林 忠彦

常設展

大・中展示室

9月23日(土・祝)～12月3日(日)

尾崎正章常設展「風のある世界」

荒涼とした秋のカルスト台地。赤茶色に紅葉した草原にすっきりとした風が吹いています。今年度の常設展は目だけでなく耳や触感など、五感で感じる尾崎の作品を紹介しています。3回目は風を感じる作品を集めて展示します。夏の爽やかな風や冬の冷たい風、海の潮風など作品の前に立って、さまざまな風を感じてみてください。



「秋吉台」1960年 油彩

その他の9月の展覧会 【中・小展示室】

入場無料

■ グループ「風車の会」作品展 9/8(金)～10(日)
9:30～17:00(入館は16:30まで)(最終日は16:00終了)最新の情報は、当館ホームページでご確認ください。 <http://s-bunka.jp/kyoubi/>ミニコラム
ガス燈

今から160年前、様々な困難を乗り越えてイギリスへ留学し、帰国後日本の近代化に貢献した五人の長州藩士がい

ました。学生時代にそのことを知って興味を持っていた私は、ある日彼らを題材にした映画「長州ファイブ」が制作されると聞いて、とてもわくわくしました。さらに、なんと山口県内の撮影でボランティアを募集することになりました。

当日は、撮影場所の整備、食事や休憩の準備など、撮影のフォローをするスタッフさんのお手伝いをさせてもらいました。映画の撮影には想像以上にたくさんの人が関わっていて、1カットを撮るためにその何十倍もの時間が掛かることを実感しました。その日の撮影は予定より大幅にオーバーして終わりましたが、現場の皆さんがいきいきと撤収作業をしていたのがとても印象的でした。私もやりがいと楽しさを感じ、芸術に関わる仕事をしよう、と改めて決意するきっかけとなりました。

現在美博では、「海外に学んだ先人たち」と題して、徳山毛利家十代、元功や児玉源太郎ゆかりの品を展示しています。どのような決意で海を渡り、どんな思いで過ごしたのか、展示品を通して思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

(前山)